

### C-3 学習の手引き LCT69(6-2)

<教本範囲外 Word> (数字はパラグラフ番号)

3. retrospectively 過去に遡って Cf. retroactively <retrospect 回顧 (法律の) 遡及力

<説明> (数字はパラグラフ番号)

1. **Barack Obama:** 力の行使に慎重なオバマは2013年夏シリア紛争に関し「米国はもはや世界の警察官ではない」と発言。発言は同盟国の不安を広げ、ロシアのクリミア併合や中国の人工島建設など「力による現状変更」も許したとの指摘がある。オバマは「アジア回帰」を謳いつつ対中関与も重視してきたが、中国は、「弱腰」と見て、東シナ海で尖閣上空を含む防衛識別圏を一方的に設定し、南シナ海で急速に埋め立てを進め、残り1年余りの任期中に既成事実を重ねたいという見方もある。
1. **Xi Jinping:** 13年3月国家主席に就任「中華民族の偉大な復興を遂げる『中国の夢』を実現する」と宣言。「一带一路(シルクロード経済圏)構想」を提唱、米国主導の国際金融秩序への挑戦と見られるアジアインフラ投資銀行(AIIB)創設を目指す。習政権下で言論統制や人権活動家・ウィグル族の抑圧が進む。「ハエも虎も叩く」「反腐敗運動」と「キツネ狩り」(海外逃亡腐敗幹部の送還)を進める。米中首脳会談で中国が送還を求め米国が拒んだとされる令完成(胡錦濤の側近で失脚した令計画の実弟)は習政権の弱みを握る重要機密を持って米国へ逃亡したと伝えられる。
1. **their governments will not conduct or knowingly support the cybertheft of intellectual property, including corporate secrets:** 中国がサイバー攻撃で米国の企業や政府機関の情報を窃取する問題が会談の最大の焦点。**knowingly support** (知りながら支援)とは穏やかな表現だが、米司法省は14年5月人民解放軍の上海の部隊が米国の原発・製鉄・太陽電池関連の企業から情報を盗んだとして5人の将校を起訴した。13年2月米国のコンピューター・セキュリティ会社は上海の部隊が過去数年、大部分は米国の141の企業にサイバー攻撃を行ったと発表。アレクサンダー米国国家安全保障局(NSA)長官が「歴史上最大の富の移転」と呼んだ窃取だが中国は否定した。
2. **their meeting at the White House:** 9月25日会談。習が国家副主席だった12年が最初で、今回6回目。親密さを見せた13年6月(加州)や14年11月(北京)の会談と異なり、習の「冷遇」が窺えた。習の国賓訪問はローマ法王の訪問と重なり影が薄れた。中国は法王の日程をずらすよう再三米国に求め拒否されたという。会談後の記者会見で両首脳は殆ど笑わず目も合わせず、引退する下院議長に関する米国人記者の質問に、オバマはかなりの時間を割き法王の言葉も引用して答え、習が立ち尽くした。
2. **a high-level dialogue mechanism to fight cybercrime:** 閣僚級対話を創設し、初会合は15年中に、その後は年2回開く。深刻な事態に対応するホットラインの創設にも合意した。首脳会談の4日後、クラッパー米国家情報長官は合意に懐疑的な姿勢を示し、米中の情報共有に関して“we're in a trust but verify mode”と述べた。「信ぜよ、されど確認せよ」は、ゴルバチョフ書記長との米ソ中距離核全廃条約の調印時にレーガン大統領が引用したロシアの諺だという。将来の戦争は戦闘前の敵国の電源など社会インフラ網へのサイバー攻撃が戦争の帰趨を決めるとされ、頻度、規模、巧妙さ、深刻さが増す中国のサイバー攻撃の脅威に、クラッパーや米軍上層部は、米国がサイバー空間で核兵器と同様の抑止力を持つことが必要と考えているという。
3. **Mr. Obama said his country will apply various tools to go after cyber criminals, either retrospectively or prospectively:** オバマは4月に米企業の情報をサイバーで盗んだ組織や個人に財務省が司法省や国務省と協議の上で制裁を科すことができると定め

た大統領令に署名した。共同会見でこの大統領令にも言及し、証拠があれば措置を講じると強調した。米政府の人事管理局(OPM)は7月9日、政府職員ら2150万人分の身元調査の情報が盗まれたという調査結果を発表した。中国の関与が疑われている。

3. **Mr. Xi said China opposes and combats the theft of commercial secrets and other kinds of hacking attacks:** 習は13年6月会談でも対米ハッキングを否定し、中国こそ米国のサイバー攻撃の被害者と主張。会談前日、米英の2紙が NSA のスノーデン元契約職員が漏洩した秘密情報を公表し、スノーデンはハワイから香港に逃亡、「米国が09年から中国本土や香港でハッキングし、世界中で6万1000件以上のうち、数百は中国本土と香港」と証言し、米国は内外から批判され、中国に都合の良い展開に。

4. **they had candid discussions on the East and China Seas:** 中国が日本の領海侵犯を繰り返す尖閣問題にも触れたという報道もあるが詳細は不明。尖閣の日本の施政権を認めながら領有権は中立を標榜する米国を元外交官の岡本行夫は「水臭い」という。

4. **the significant US concerns over China's land reclamation in the South China Sea:** 5月アジア安保会議でカーター国防長官が埋め立ての規模と速度に懸念を表明。その後中国はスプラトリー（中国名・南沙）諸島での埋め立て完了を発表し、施設建設を続けた。日本の重要なシーレーンである南シナ海の人工島は「航空母艦」の役割も果たす。人工島を「砂の万里の長城」と批判する日系のハリス米太平洋軍司令官は9月17日中国の3本目の滑走路建設中の事実を明かし、中国軍が「南シナ海を事実上支配できる」と述べた。9月25日英国の軍事専門誌はスプラトリーのファイアリークロス（永暑）礁で「3125メートルの滑走路が完成し近く運用開始の見通し」と。

4. **Mr. Xi argued that the islands there ... China's territories since ancient times:** 中国は国際法上承認されていない9本の境界線「九段線」を設け南シナ海の9割を自国領海と主張。スプラトリーは中国、フィリピン、マレーシア、ベトナム、ブルネイ、台湾が、パラセル（西沙）諸島は中国、ベトナム、台湾が領有権を主張。アキノ大統領は中国をチェコ侵攻のナチス・ドイツと同一視し、対中宥和主義に反対する考えを表明した。南シナ海埋め立ては「ヒットラーのラインラント進駐」という声も。

5. **agreed to rules of behavior to prevent accidental clashes between their military aircraft:** 5月20日スプラトリー上空を米海軍対潜哨戒機が飛行し、中国海軍が無線で米機に「出て行け」と8回警告、米機は「自由に航空できる国際空域だ」と反論。一触即発の模様を同乗の CNN 取材陣が撮影した。9月15日には中国戦闘機2機が黄海上空の国際空域で米軍電子偵察機を補足して異常接近したという。

☆ 習は13年6月「核心的利益や懸案で相互尊重」の原則に基づく米中「新型大国関係」を呼び掛け今回も言及した。中国の「核心的利益」は尖閣や南シナ海の領有権も含み、オバマは同調しないが、中国が発表した成果文書に「両国は新型大国関係の構築に引き続き取り組むことを表明」とある。大統領選を控え候補者は中国に厳しく、オバマもサイバーなど強く迫ったが、南シナ海も人権も進展がなく、習は「逃げ切った」と言う人もいる。15年2月出版の“The Hundred-Year Marathon: China's Secret Strategy to Replace America as the Global Superpower”の著者 Michael Pillsbury（元国防総省顧問）は、「数十年、民主・共和両政権に技術・軍事の対中支援を働きかけてきた自分も含め、米国は40年間中国に騙されていたことに気付かなかった」と対中戦略で警鐘を鳴らす。(HK)